

2015年6月8日

原子力規制委員会
委員長 田中俊一様

地震爆発論学会
会長 工博 石田昭
(元・名古屋工業大学教授)

公開質問状(別紙)送付のご案内

拝啓 時下益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

当学会は、原発サイトの安全性審議などで採用されています「活断層理論」という地震発生メカニズムに関して疑問を抱く有志が集まり 2012年に設立された学会です。

さて、本日の産経新聞の報道で、川内原発の再稼働に向けての検査がやり直しになったとありました。田中委員長の話として「九電もそれなりに全力を傾けてやっていると思うが、いろいろな不備が出てくる。それも検査の一つで仕方がない」と報道されています。

それならば、前委員長代理の島崎邦彦氏の「活断層危険視」がまったく意味のない“非科学的な姿勢”である事が判明(公開質問状に答えられない事から明白)している事も重大な「不備」があったと認定せざるを得ないと思われます。

このような重大な「不備」は不問に付して、単なる書類の不備によって国家の重大なるエネルギー政策に横槍を入れていいのか、という怒りさえ覚えるものであります。

しかし、この点をご質問してもたぶん議論が噛み合わない恐れがあります。よって、島崎氏などの地震学者が規制委員会にて前提としておられる「活断層理論」についての認識を別紙のように「公開質問」させていただきます。

地震発生の仕組みに関しては公開質問状にも記してありますが、「滑断層理論」が導入されるまでは、東大地震研究所の石本巳四雄博士らの「マグマ貫入爆発論」が大勢を占めていました。この爆発理論が否定されたのは、地震計の発達により、地震時には、「押し」と「引き」という二つの動きがあることが判明した事にあります。つまり、爆発現象ならば、全てが震源から離れるような「押し」となり、震源に引き込まれるような「引き」という現象が説明できないという理由からです。

しかし、当学会が主張するような「水素爆発」ならば、「押し」も「引き」も現れることは説明が可能です。したがって、「地震爆発論」を否定し、「活断層論」を肯定する根拠は存在しないはずで

す。原子力規制委員会委員長として、「爆発論を否定し、断層理論を支持する理由」を別紙のような形で公開質問状を送付させていただきます。回答(無回答の場合も)は地震爆発論学会のサイト上で公開させていただきますので、期日までにご回答をいただければ幸いです。

敬具

連絡先 〒465-0024 名古屋市名東区本郷 2-57 CIM 第三本郷 S-203 石田昭

地震爆発論学会公式 HP: <http://bakuhatu.org/> <http://www.aillab7.com/index.htm>

別紙

原子力規制委員会

田中俊一委員長への 『公開質問状』

質問 1

昭和 36 年に安芸敬一先生が米国から帰国され、「地震は断層です。」と転向発言されたことは有名ですが、それ以前には「マグマ貫入爆発理論」という石本巳四雄先生（東大地震研究所 2 代目所長）らによる日本固有の理論がありました。この理論が否定されたのは、初動の押し引き分布が爆発現象では説明できないと考えられたことでした。しかし、熱解離によって発生する水素と酸素の混合ガスが「爆鳴気爆縮」を起こしている、とする当学会の「地震爆発論」では、押し引き分布の成生をうまく説明することが可能です。この点に関する貴殿のご見解、あるいは貴委員会の審議姿勢として、「マグマ貫入爆発理論」を否定し、「活断層地震説」を支持されておられる理由をお聞かせください。

質問 2

地震学の権威である前・東大地震研究所教授島崎邦彦先生は「活断層とは何か」（東京大学出版会）の中で、「地震現象とは震源で“何か”が起こり、その結果地震の波が発生し、・・・」と記述しておられます。当然“何か”というのは「水素爆発」の可能性もあるはずですが、しかし、続く文章では「地震の震源域では、“ある面”（断層面と呼ぶ）を境として地塊がずれ、そのずれる運動によって地震の波が発生する。」と説明しています。“ある面”と言うのは「水素爆発」の結果として発生する“ずれ”である可能性も否定できないはずなのに、即断的に「断層面と呼ぶ」と決め付けておられるのは論理に飛躍があると思います。

石本巳四雄先生は、「まず、「震源」に「断層の成生」を仮定し、「初動分布」がその仮定に背馳しないという理由から、「地震の原因」がそれであると決定する。これは、「結論たるべき主張」が、すでに「前提」の中に含まれていることから、論理上からすれば「正常な証明」とはならない。すなわち、もし「地震波の放射」が「断層成生」にあらずと仮定しても「初動分布」が説明される場合に逢着するならば、以上の主張はただちに頓挫することとなるからである。」

と述べておられます。上述した「地震爆発論」でも「初動分布」は説明可能ですので、「ある面”を”断層面と呼ぶ“という即断的主張は理論的に頓挫しているのではないのでしょうか。貴委員会委員長の審議姿勢として、「活断層地震説」を支持されているお立場から、この点について、論理の矛盾をご説明ください。

以上宜しくお願いいたします。

敬具

回答送付先 地震爆発論学会 会長 石田昭
〒465-0024 名古屋市名東区本郷 2-57 CIM 第三本郷 S-203
Tel: 052-771-9960 mail: isschy7@kfz.biglobe.ne.jp
回答期限 2015 年 7 月 5 日